

はまごろう小だより

～当たり前のことを 当たり前に見える子に～

伊勢市立浜郷小学校
校長 上地明宏
平成29年12月 4日(月)
第32号

子ども人権フォーラム 浜郷小の子どもたちが横断性を発揮!

11月29日(水) いせトピア多目的ホールで子ども人権フォーラムが開催され、伊勢市内から6年生の代表236名が参加し、提案作文の発表後、意見交流を行いました。

提案作文の発表は、人権作文の中から選ばれた3名の代表者で行われ、テーマは「コンプレックス」「部落差別」「グループ化」でした。代表者に選ばれた植村瑞紀さん(6B)は、自分のコンプレックスについて作文を読み上げ、堂々と意見を述べるなど、会場を圧倒する勢いでした。

浜郷小からは、大河内先生引率の下14名が参加し、討議に参加しました。

「コンプレックス」では6人、「部落差別」では4人、「グループ化」では5人が自分から進んでマイクの前に立ち、自分の思いを一生懸命伝えました。

その姿はととても立派で、わたしは校長として誇らしく思いました。



続・入賞おめでとう!

○三重県地球温暖化防止啓発ポスターコンクール

優秀賞 松井誉敬 (4A)



○三重県小中学校競書会

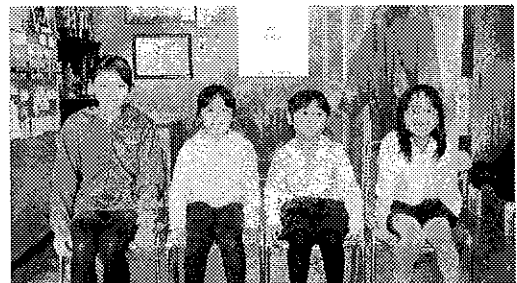
特選 中島佑菜 (1B)

// 村井彩音 (1B)

// 中西利乃花 (2A)

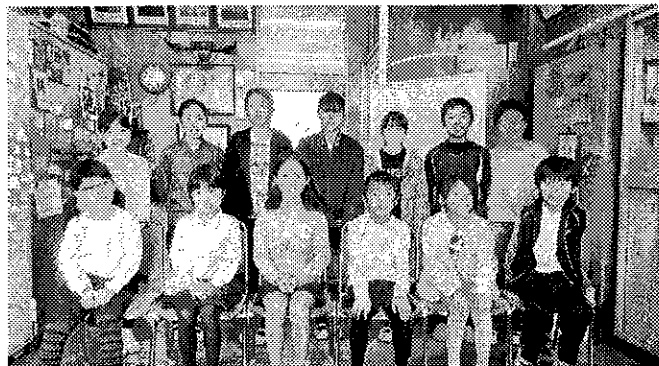
// 北村怜奈 (5B)

※北村怜奈さんの作品は県審査へ



○伊勢市人権作文入賞

「やさしいおねえさん」	川上莉奈 (1A)
「ともだちってすごくいいな」	南平彩乃 (1B)
「やさしくなりたいな」	岡本康汰 (2A)
「やさしいおにいちゃん」	西川愛音 (2B)
「楽しい1日と小さなけんか」	森 柚奈 (3A)
「ヤクルトとお母さんの愛」	野村優佑 (3B)
「言葉の大切さ」	酌井美空 (3C)
「昔の自分に言いたいこと」	松井誉敬 (4A)
「ゆびきりげんまん」	奥村 碧 (4B)
「大好きな親友」	喜多侑凜 (5A)
「友だちとのケンカ」	大西葉月 (5B)
「気持ちを伝えるには」	福永彩華 (6A)
「自分と同じで安心」	植村瑞紀 (6B)



ペルー体験記 第54話

実録・ペルー大使公邸事件④

浜郷小学校 上地明宏

事件から5日後、人質になっていた日本人学校の教職員5名が解放されました。解放される時刻と場所の情報を、わたしは事前に入手していました。これも日系ペルー人を通じて培った人脈のおかげです。すぐに迎えの車を差し向けることができました。

5名の帰宅を確認した後、わたしは文部省の課長たちと祝杯を挙げました。しかし、まだPTAが残っています。勝負はこれから、浮かれてはいられませんでした。この日以降、続々と人質が解放されてきます。人質が帰ってきたおかげで、大使公邸内の状況が明らかになってきました。

① 小型爆弾の破裂

人質の逃走防止用に、テロリストがドアに小型爆弾を取り付けました。ところが風でドアが勢いよく閉まった拍子に爆弾が破裂したのです。ドアから離れていたので大事には至りませんでしたが、みなさん肝を冷やしたそうです。

② 宝石類の紛失

レセプションでは、女性はドレス、ネックレス、イヤリングなどを身に付けます。ところが、テロリストが外壁を爆破して突入してきたものだから、みなさん銃弾を避けるために這いつくばって逃げたのです。そのとき宝石類を落としてしまったらしいのですが、事件が終結しても宝石は行方不明のままです。いったい誰がポケットに入れたのでしょうか？



③ 身分証明書の処分

テロリストに身分を知られないように、みなさん身分証明書を切り刻んでトイレに流しました。ところが大量だったので便器が詰まってしまう、後でみなさん困ったようです。

④ 捕まっても酒

いくら人質になっても、酒好きには欠かすことができません。医薬品のアルコールをコーラで割ったらなかなかいける味です。大使館付きの医務官（保護者です）のお奨めでした。

⑤ トイレ当番表

日本人は清潔好きです。人質になってもきれいなトイレを使いたい。壁に当番表を張ってみんなで掃除をしていたようです。

⑥ 将棋教室の開催

事件がこう着してくるとテロリストも人質も退屈です。そこでテロリストに将棋を教えてあげたら大喜び。思わぬ文化交流が生まれました。(つづく)

<在ペルー日本大使公邸事件>

96年12月17日発生～97年4月22日終結。ペルーのテロ組織MRTA14名が在ペルー日本大使公邸を重火器にて襲撃し、ペルー政府要人、日本大使館職員、日本企業職員、日本人学校教員、日系ペルー人等600名以上を人質にした未曾有の大事件。

※最近、ヨーロッパやアメリカでのテロが話題になります。イスラム系のテロは自爆型です。自分の命を投げ出してもテロを貫徹しようとしています。

しかしながら、ペルーのテロリストはカトリックです。ペルーの爆破テロは、無人の車に爆弾を積んで突っ込ませるものでした。カトリックは絶対に自爆しません。大切なのはまず自分の命であり、自分を犠牲にする発想はありません。